

選手村を擁する中央区だからこそできる取組で 一人一人の可能性が開花する教育を目指して

中央区教育委員会事務局指導室長 吉野 達雄

Q：中央区オリンピック・パラリンピック教育の特徴は？

A： 本区では、東京2020大会を子どもの夢と生きる力を育む絶好の機会と捉え、平成27年度から東京都に先駆けて実施しています。「オリンピック・パラリンピック学習」「ハートフルスポーツ」「体力向上」「中央区版『一校一国運動』を通じた学習」を、4つの柱と位置付け、計画的に展開しています。



Q：これまでの取組の成果は？

A： 世界のさまざまな国の学習や交流を通して、幼稚園では、「外国に興味をもち積極的に関わろうとする意識」が、小・中学校では、「自ら進んで世界の国々を知り交流しようとする国際感覚」が身に付いています。さらに、子どもたちが地域や区主催スポーツ行事のボランティア活動に主体的に参加するなど、社会に貢献しようとする力も育まれています。

Q：開催年に向けて力を入れて取り組んでいくことは？

A： 国、東京都、東京2020組織委員会と連携し、各国のオリンピック・パラリンピック選手団との積極的な交流や、ボランティア活動など、選手村を擁する中央区だからこそできる取組を展開していきます。

Q：オリンピック・パラリンピック教育の目指すもの「オリンピック・パラリンピックを通して子どもたちに身に付けてほしい力」とは？

A： 学術、文化、経済などさまざまな分野でグローバル化が進んでいる中、年齢、国籍、文化の違いや障害の有無などに関わらず、あらゆる人々が互いの人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会の実現に寄与できる人材を育成していくことが重要だと考えています。そのために、オリンピック・パラリンピック教育を通して、中央区の子どもたちには、多様な価値観をもつ人々と「協力・協働しながら問題解決する力」、誰とでも「積極的にコミュニケーションを取る力」、自分のアイデンティティをしっかりともち、「豊かな国際感覚で対応できる力」を身に付けてほしいと考えています。

これからも、地域・家庭と連携・協働しつつ、本区の伝統的な歴史的・文化的遺産を愛し、自分の生まれ育ったまちや地域に誇りをもつことを大切にし、一人一人の可能性を開花させる教育に邁進してまいります。

今後も、地域の皆さま、保護者の皆さまのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



HOST CITY



中央区の パラリンピック教育

オリンピック・パラリンピック学習

保健体育科や社会科、総合的な学習の時間などにおいて、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、理念、オリンピック憲章などに関する学習を行っています。



ヨーコ・ゼッターランドさん（バルセロナ・アトランタオリンピック女子バレーボールアメリカ代表（銅メダリスト）が「Go for the GOLD! ～2020東京五輪に向けて」をテーマに講演を行い、バレーボールの実技指導もしていただきました。（銀座中学校）

また、オリンピック・パラリンピックに関わる多様な教材の活用を図り、国際的な視点で積極的にコミュニケーションを図る態度を育成しています。



リオデジャネイロオリンピック金メダリストの田知本選手（柔道女子70kg級）が「わたしの経験からのオリビズム」をテーマに講演を行い、柔道の鮮やかな技も披露してくださいました。（佃中学校）写真提供：lovespogram

ハートフルスポーツ （共生社会に貢献する態度とボランティア精神の育成）

特集
P.1～3

パラリンピック競技や障害者スポーツなどの学習や体験を通して、共生社会の一員としての態度を身に付けるとともに、オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にボランティア精神の醸成を図るため、主体的にボランティア活動を実施し、積極的に社会に貢献する幼児・児童・生徒の育成を目指します。



【義足体験】
義足ランナーとの交流や義足体験により、障害者スポーツへの関心が高まり、障害者理解がより一層深まりました。（晴海中学校）



【地域清掃】
学校周辺の清掃活動を通して、街がきれいになることに喜びを感じ、さまざまな奉仕活動につながる機会になりました。（常盤小学校）

体力向上

体力調査の分析結果からそれぞれの課題を設定し、授業や休み時間、放課後を活用して、体力向上に取り組んでいます。特に幼稚園では、13園全園を「運動遊び推進園」に指定し、運動遊びを計画的に実施しています。

オリンピックやトップアスリートを招いてオリンピック種目の体験を行うなど、幼児・児童・生徒のスポーツ志向の拡大を図るとともに、フェアプレー精神や他者への尊重、努力する大切さなど心身の調和の取れた人間性を育みます。



【大縄跳び】
運動会の学年別クラス対抗大縄跳びの練習に、各クラスで声掛けや人の配置などを工夫して意欲的に取り組み、チームワークの育成にもつながりました。（日本橋中学校）



【コーディネーショントレーニング教室】
コーディネーションの動きを遊びに取り入れたことで、自分で体の動きを考えたり、変化させたりするようになりました。（中央幼稚園）

中央区版「一校一国運動」を通じた学習

全校・園が主体性と創意工夫を発揮し、オリンピック・パラリンピックに関わる国・地域に対する応援活動やその文化・歴史・言語などの学習に加え、交流も含めた活動への取り組みを行っています。5大陸のさまざまな国の文化や歴史などの幅広い学習を踏まえ、全校・園が、継続して交流するメイン交流国を選択し、直接交流を通じてさらなる国際感覚の醸成を図っています。



【カタール国との交流】
カタール国大使、大使館員の協力を得て、資料をもとに、両国の文化、経済、気候を知り、比較するなどして国際理解が深まりました。（有馬小学校）



【中華人民共和国との交流】
来日した中華人民共和国の児童と日本の伝統的遊びや給食などで交流したことで、自国や他国の文化や言語を知り、中華人民共和国の理解を深めることができました。（阪本小学校）



【アメリカ合衆国との交流（アメリカ大使館「GO FOR GOLD」キャンペーン）】
平昌オリンピックのアイスダンスアメリカ代表で銅メダルに輝いたアレックス・シブタニ選手、マイア・シブタニ選手の兄妹が来校し、日本文化の紹介として、「月3ソーラン」「YOSAKOI POWER」などを披露し、オリンピックメダリストとの貴重な交流を経験することができました。（月島第三小学校）



【インドネシア共和国との交流】
インドネシア共和国の幼稚園の様子や、生活について話を聞いたことで、インドネシア共和国に関する興味・関心が高まりました。（月島幼稚園）

